

# 医療活動団体と支援協定

高知、須崎市  
黒潮町締結 災害時 医師ら派遣

高知市と須崎市、幡多郡黒潮町は2日、国内外の被災地や紛争地で医療支援活動を行っているNPO法人「AMD A(アムダ)本部・岡山市」と、大規模災害時の支援協定をそれぞれ結んだ。南海トラフ地震の発生時には、アムダが避難所に医療スタッフを派遣する。

1984年に発足したアムダは、世界中の被災地や紛争地で、緊急医療支援や生活環境向上のための長期的な支援を行っている。阪神・淡路大震災や東日

本大震災などの際にも活動した。



高知市などと災害支援協定を結んだ  
アムダの菅波茂代表(同市役所)

アムダは昨年12月、県を相手に、災害時に医師や看護師を派遣し、医療活動や生活支援を行うという協定を締結。実際にスタッフ

が地域に入って活動することを想定し、3市町とも協定を結んだ。アムダ代表で医師の菅波茂さん(68)は「道路の通行許可や医薬品の調達など、民間だけではできないこともある。事前に行政と協定を結ぶことで支援を具体化できる」と意義を強調。被災時は避難所での医療活動や巡回診療のほか、海外からの医療支援の受け皿にもなりたいという。

須崎市は、アムダと連携した訓練も想定。楠瀬耕作市長は「防災意識の向上や医療体制の強化につながり、心強い」と話していた。(大山泰志、山本仁)